

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年7月～平成25年3月(4年9月)

1. 概況

JR弘前駅前から土手町商店街へ抜ける「えきどてプロムナード（歩行者専用道路）」や広場等で定期的開催している都市と農村交流事業（産直マルシェ事業）や、弘前城築城400年祭事業、若者が主体となったストリートダンスフェスティバルなど、中心市街地活性化協議会や各商店街、NPO等によるソフト事業については概ね計画通り実施されています。また、土手町コミュニティパーク整備事業や弘前駅前再開発ビル再生事業などについても、現在、順調に事業が進められているところです。

当市の認定基本計画に掲げられた56事業の状況については、現在、11事業が完了、41事業が事業実施中、ハード事業など4事業が未着手の状況となっていますが、未着手の事業についても、平成24年度以降、概ね計画通りに実施される見込みとなっています。

また、中心市街地の状況は、中心商店街空き店舗率は前年度と比較して横ばいとなったものの、歩行者・自転車通行量及び中心市街地観光施設等入場者数については、前年度と比較して改善する結果となりました。

平成23年度は、3月11日の東日本大震災を発端とした、百貨店の民事再生開始や老舗小売店の廃業・閉店が連鎖的に発生し、回復基調にあった経済環境にも悪影響を及ぼすこととなりましたが、今後も、基本計画掲載事業の着実な推進と、実効性のある新たな事業の検討を進めていくことにより、中心市街地の活性化の実現を図っていくこととします。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
歩いて出かけたくなる賑わいのあるまち	歩行者・自転車通行量 (平日と休日の平均)	20,464人 (H19)	25,000人 (H24)	19,119人 (H23)	③	②
	中心商店街空き店舗率	13.7% (H18)	8.5% (H24)	12.0% (H23)	①	②
歴史・文化と触れあえる観光のまち	中心市街地観光施設等 入場者数	1,820,440人 (H18)	2,125,000人 (H24)	1,821,802人 (H22)	③	③

注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①歩行者・自転車通行量（平日と休日の平均）

「都市と農村交流事業（産直マルシェ事業）」や若者が主体となったストリートダンスフェスティバルなどのソフト事業の実施による波及効果も併せると、一定の効果が現われています。事業は概ね予定通りに進捗していますが、東日本大震災に端を発した想定外の外部要因の影響も残っており、このままでは目標達成が見込めない可能性があることから、土手町コミュニティパーク整備事業の活性化ソフト事業（どてまち賑わい創出事業）などの事業化を進め、数値目標の達成を目指していきたいと考えています。

②中心商店街空き店舗率

空き店舗解消につながる各種融資制度は予定通り運用されていたものの、計画どおりの効果は発現しませんでした。また、東日本大震災に端を発した想定外の外部要因の影響も残っていることから、このままでは目標達成が見込めない可能性もありますが、空き店舗解消につながる各種支援制度と市の融資制度を効果的に組み合わせた活用方法などを、これまで以上に周知・提案していくことにより、数値目標の達成を目指していきたいと考えています。

③中心市街地観光施設等入場者数

東日本大震災の影響はあったものの、東北新幹線全線開業に向けたイベントや開業後の観光客増加の効果により、数値目標は前年度よりも増加する結果となったことから、東北新幹線全線開業による効果を維持していくために「街歩きガイド事業」などの通年観光事業を、引き続き推進することにより、数値目標は達成できるものと考えています。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

(1)「歩行者・自転車通行量（平日と休日の平均）」

平成22年度フォローアップにおいて「③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。」としていましたが、事業は概ね予定通りに進捗していますが、東日本大震災に端を発した想定外の外部要因の影響も残っていることを踏まえ、「②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。」と見通しを変更したものです。

(2)「中心商店街空き店舗率」

平成22年度フォローアップにおいて「①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。」としていましたが、融資制度は予定通り運用されていたものの、東日本大震災により多くの事業者が、新規出店や新たな設備投資を控えたなどの要因により想定した効果が発現されていない状況にあるとともに、東日本大震災に端を発した想定外の外部要因の影響も残っていることを踏まえ、「②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。」と見通しを変更したものです。

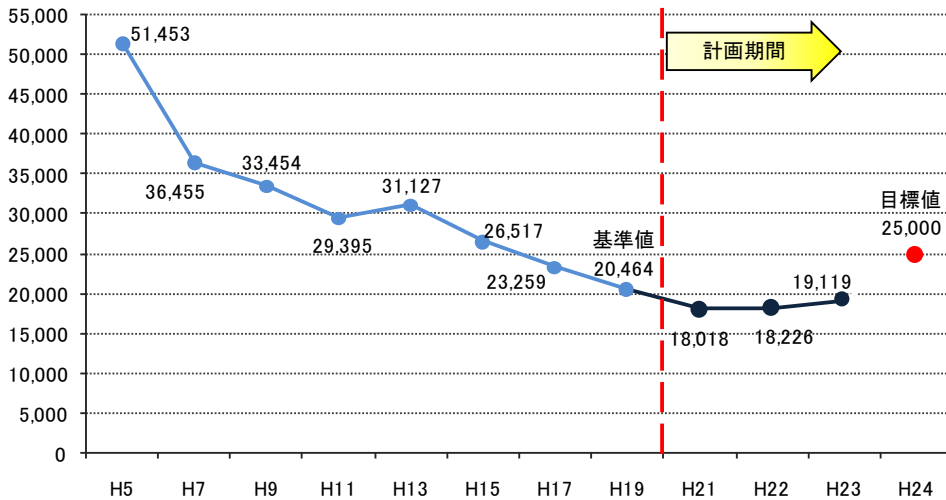
5. 今後の対策

今後も、目標達成に向けて各事業主体と連携しながら、基本計画掲載事業の着実な実施を推進していくこととします。加えて、中心市街地活性化協議会や市の庁内組織等において、各事業の進捗状況及び目標指標の推移について点検・評価し、その評価に対応した効果的な事業を検討することにより、中心市街地活性化の実現を図っていくこととします。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「歩いて出かけたくなる賑わいのあるまち」

「歩行者・自転車通行量（平日と休日の平均）」※目標設定の考え方基本計画 P62～P69 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H19	20,464 (基準年値)
H20	—
H21	18,018
H22	18,226
H23	19,119
H24	25,000 (目標値)

※調査方法；歩行者・自転車通行量調査（毎年度8月実施）

※調査月；平成23年8月最終金曜日・日曜日実施、12月取りまとめ

※調査主体；弘前市

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、平日・休日7地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中土手町商店街環境整備事業（弘前中土手町商店街振興組合）

都市計画道路3・4・7号弘前宮地線整備事業（青森県）

事業完了時期	【済】平成21年度（中土手町商店街環境整備事業） 【済】平成22年度（都市計画道路3・4・7号弘前宮地線整備事業）
事業概要	中土手町商店街において、電線類地中化・歩道融雪整備事業（青森県事業）及び街路灯・ファサード設置事業（商店街事業）を実施する
事業効果又は進捗状況	夜間や冬期間でも安全に回遊できる空間が創出され、中土手町商店街における歩行者・自転車通行量は順調に増加しており、直近の調査では、前年（平成22年）に比べ6.7%、前々年（平成21年）に比べ19.6%増加している。

②. 【追加】中土手町来街者サービス等拠点施設整備・運営事業（弘前中土手町商店街振興組合）

事業完了時期	【実施中】平成23年度から
事業概要	高齢者等の来街者サービスの実施拠点やコミュニティスペースの整備・運営及び定期的なイベント開催等のソフト事業を実施する
事業効果又は進捗状況	平成23年度、中土手町商店街区内に民間事業者が整備した地域資源等の情報発信スペース（どて箱）を活用して事業を実施する方向で検討を進めているところ。なお、平成24年2月下旬から来街者サービスとして「買い物宅配サービス」を同事業者と連携し、実施しているところである。

③. 土手町コミュニティパーク整備事業（株式会社アップルコミュニケーションズ）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	情報発信機能及び学生・市民活動の交流機能、商業機能、多目的広場等を備え、多世代の地域住民や観光客等への利便性が高い施設を整備する
事業効果又は進捗状況	商業棟は、戦略的中心市街地商業等活性化事業費補助金を活用し、現在整備中であり、平成 24 年 10 月のオープンを目指している。また、交流機能棟及び多目的広場等については平成 24 年 5 月から整備に着手し、同年 12 月のオープンを予定しているところである。

④. 弘前中央食品市場再生事業（弘前中央食品協同組合）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度から
事業概要	市場内の空店舗が増加し、来客数も減少しているという課題を解消するために、消費者ニーズに対応したテナントミックスにより再生を図る。
事業効果又は進捗状況	地場野菜や魚、惣菜に加え、輸入食品など、これまで同市場で扱っていなかった商品を取り揃えた新たな店舗が、平成 23 年度に出店したことにより若い世代も市場を訪れるようになった。その他、中心市街地活性化協議会と連携した販売促進事業の展開や、イベントへの積極的参加等により、市場の認知度も向上してきている。

⑤. 津軽弘前屋台村整備・運営事業（津軽弘前屋台村協議会（津軽弘前屋台村株））

事業完了時期	【実施中】平成 20 年度から
事業概要	飲食屋台や多目的ホールを併設した商業施設を整備する
事業効果又は進捗状況	様々なジャンルの飲食屋台にはリピーター客が増えているほか、店頭での産直マルシェ事業や、多目的ホールでは定期的なイベント等開催されており、飲食目的以外の来場者も多く見られるところ。本施設前における直近の歩行者・自転車通行量は、平日・休日ともに増加しており、前回の調査から 13.8%増加しており、一定の効果が現われているところである。

⑥. 高等教育機関コンソーシアム交流プラザ整備事業（弘前大学他 5 大学）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」に参画している弘前市内 6 大学の共同交流施設の設置及び運営。
事業効果又は進捗状況	学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムでは、今年度、各大学の特色を活かし、市民向けの合同公開講座を実施するとともに、学生による合同チャリティ大学祭の開催や「まちづくりプラン」の策定などの活動を展開している。今後も引き続き、中心市街地内での活動を展開していく予定であり、土手町コミュニティパーク整備後（平成 24 年度完成予定）は、当該施設を主な拠点とし、事業を実施していく予定である。

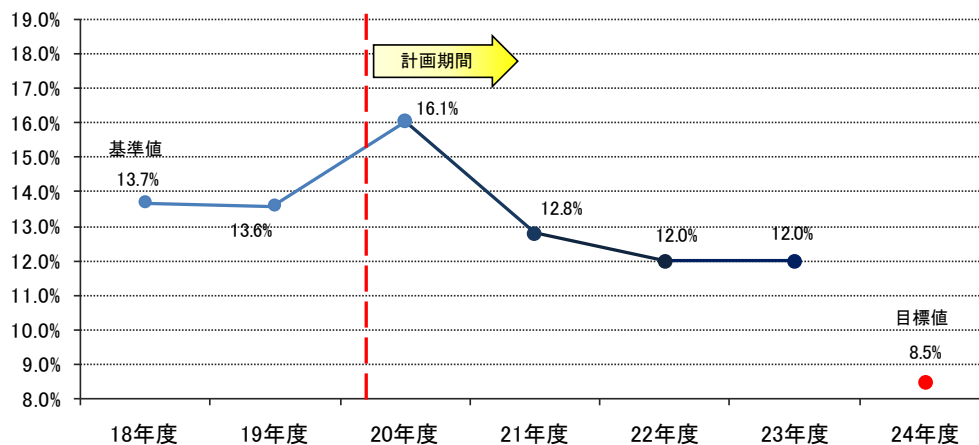
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・「中土手町商店街環境整備事業」及び「都市計画道路3・4・7号弘前宮地線整備事業」は平成22年度までに完了しています。また、「津軽弘前屋台村整備・運営事業」についてもリピーター客が増えているほか、その他ソフト事業（「都市と農村交流事業（産直マルシェ事業）」や若者が主体となったストリートダンスフェスティバルなど）の実施による波及効果も併せると、一定の効果が発現していると考えています。
- ・事業については概ね予定通り進捗していますが、百貨店の民事再生開始や老舗小売店の廃業・閉店が連鎖的に発生するなど、東日本大震災に端を発した想定外の外部要因の影響もまだ残っているため、このままでは目標達成が見込めない可能性があります。
- ・そのため、土手町コミュニティパーク整備事業の活性化ソフト事業（どてまち賑わい創出事業）の平成24年度からの事業化を進めるほか、歩行者天国定期開催事業の関連事業であるトランジットモール社会実験事業などを新たに実施することにより、中心市街地全体の回遊性を向上させ、数値目標の達成を目指していきたいと考えています。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「歩いて出かけたくなる賑わいのあるまち」

「中心商店街空き店舗率」※目標設定の考え方基本計画 P69～P72 参照

1. 調査結果の推移



年	(%)
H18	13.7 (基準年値)
H19	13.6
H20	16.1
H21	12.8
H22	12.0
H23	12.0
H24	8.5 (目標値)

※調査方法；中心商店街空き店舗調査（毎年度1月～2月実施）

※調査月；平成24年2月実施

※調査主体；弘前市

※調査対象；空き店舗・空き地、中心市街地の6商店街

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗・空き地地権者意向調査（中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	【済】平成20年度
事業概要	空き店舗・空き地の所有者の状況及び活用についての意向を把握する調査の実施。
事業効果又は進捗状況	調査結果については「テナントミックス・商店街コーディネート事業」などの検討に活用されているほか、調査と併せて実施した空き店舗の活用支援等についての提案によって、一定期間の家賃減免等の優遇措置を講じ、新規出店が促されたなどの効果もみられた。

②. テナントミックス・商店街コーディネート事業（中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	【実施中】平成20年度から
事業概要	専門家によるアドバイスや新規出店者への開業時の販促経費補助等を行う。
事業効果又は進捗状況	新規出店者の開業時販促経費の一部を補助するために、弘前市中心市街地活性化協議会が平成22年度に創設した「中心市街地開業支援助成金」については、平成23年度に3件の実績があり、店舗の認知度向上と顧客の獲得など、一定の効果が現われているものである。

③. 空き店舗活用チャレンジ融資利子補給措置（弘前市）

事業完了時期	【実施中】平成21年度から
事業概要	青森県の「空き店舗活用チャレンジ融資」に協調し、市が保証料及び利子を補助する。
事業効果又は進捗状況	平成21年度は0件、22年度は2件、23年度は1件の融資実績があり、これまで本制度を活用して2件の新規出店が実現している。本制度については、これまで実績が低調であったが、着実に制度が浸透されてきており、空き店舗へ新規出店の促進に寄与しているものである。

④. 商業近代化資金融資の特例措置（弘前市）

事業完了時期	【実施中】平成21年度から
事業概要	市の融資制度である「商業近代化資金」の融資条件に特例を設け、中心市街地区域内での店舗の新築、増改築のための資金の融資に係る利子を補助する。併せて、融資限度額の引き上げや資金使途の拡充を行う。
事業効果又は進捗状況	平成23年度は利用がなかったが、平成21年度は2件（新規出店0件）、22年度は3件（新規出店2件）の融資実績があり、これまで本制度を活用して2件の新規出店が実現している。

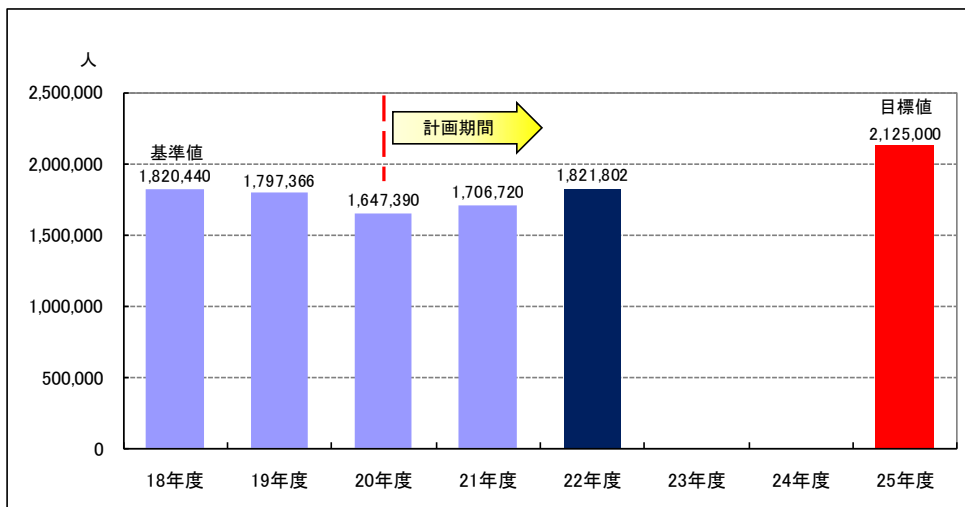
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・平成23年度において、「空き店舗活用チャレンジ融資利子補給措置」及び「商業近代化資金融資の特例措置」は予定通り運用されていたものの、その活用実績がなかったことから、計画どおりの効果は発現しませんでした。これは、様々な要因が考えられますが、やはり、東日本大震災により多くの事業者が、新規出店や新たな設備投資を控えたことが最大の要因であると考えられます。また、東日本大震災に端を発した想定外の外部要因の影響もまだ残っているため、このままでは目標達成が見込めない可能性があります。
- ・そのため、空き店舗へ入居する際の改装費の一部を補助する「空き店舗活用支援事業」（市の制度）や、新規開業時の販促事業に要する経費の一部を補助する「中心市街地開業支援助成金」（弘前市中心市街地活性化協議会の制度）など、空き店舗の解消につながる各種支援制度と、市の融資制度を効果的に組み合わせた活用方法などを、これまで以上に周知・提案していくことにより、数値目標の達成を目指していきたいと考えています。

II. 目標毎のフォローアップ結果「歴史・文化と触れあえる観光のまち」

「中心市街地観光施設等入場者数」※目標設定の考え方基本計画 P72～P76 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	1,820,440 (基準年値)
H19	1,797,366
H20	1,647,390
H21	1,706,720
H22	1,821,802
H23	
H24	2,125,000 (目標値)

※調査方法；弘前市商工観光概要

※調査月；4月～翌年3月

※調査主体；弘前市

※調査対象；中心市街地内の9施設（弘前公園、津軽藩ねぶた村、市立観光館、藤田記念庭園、百石町展示館、旧伊東家、旧岩田家、まちなか情報センター、駅前観光案内所）における入場者等

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 弘前公園（鷹揚公園）整備事業（弘前市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	弘前公園内の便益施設の整備、濠の護岸整備、園路・橋梁整備等を行い、観光資源としての価値を高めるとともに公園機能の充実を図る。
事業効果又は進捗状況	平成20～22年度において、導水施設、西濠護岸、橋梁架替(2箇所)、園路整備等を実施。平成23年度については、引き続き園路整備を行ったほか、北の郭南西坂整備工事を実施。

②. 弘前城本丸石垣整備事業（弘前市）

事業完了時期	【未】平成39年度
事業概要	崩落の危険性がある弘前城本丸の石垣を積み直し、重要な歴史的文化的資源である弘前城を保全するとともに、工事を一般公開することにより観光資源としても活用を図る。
事業効果又は進捗状況	平成22年度までにボーリング調査等が終了し、今後、天守を移動させて石垣を修理することとなるが、平成23年度は、石垣修理の際に必要な天守の移動のため「天守曳き家基本計画」を策定した。天守移動については、歴史的に貴重な機会として、来園者が作業状況（石垣の積み直し作業等）を見学できるようにする予定である。

③. 弘前公園周辺整備事業（弘前市）

事業完了時期	【未】平成 26 年度
事業概要	弘前公園の周辺にある新寺構土墨緑地、追手門広場、旧第八師団長官舎、旧紺屋町消防屯所などについて、建物の修復や通路・修景施設を整備し、観光資源としての魅力度向上や新たな資源としての活用を図る。
事業効果又は進捗状況	「弘前市歴史的風致維持向上計画」に基づき、平成 23 年度は、旧紺屋町消防屯所の保存・公開に向けた修理及び耐震改修工事や夜間景観を演出するためのライトアップ整備を実施。

④. 市立観光館リニューアル事業（弘前市）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	津軽地域の観光資源やまつり等の情報発信、伝統産業の P R、土産品の販売等の機能を担ってきた市立観光館の展示物や機器等をリニューアルし、機能を強化することにより観光施設としての魅力を向上させる。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年度は、アドバイザーも加えながら、リニューアルに向けた検討を進め、基本構想（案）をまとめた。今後、これをたたき台に基本構想を作成したうえで、設計作業等の事業を進めていくこととしている。

⑤. 都市と農村交流事業（弘前市、農業団体、中心商店街他）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度から
事業概要	当市の農村部で収穫された農産物等を中心市街地において販売する「産直マルシェ」の開催等。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年度は、駅前から上土手町へ続く歩行者専用道路を会場に、7 月から 11 月までの毎週日曜日、弘前マルシェ「FORET」が定期的で開催されたほか、中心市街地内の広場や店舗前等を会場としたマルシェや、通りを歩行者天国にした「りんごトラック市」なども開催され、多くの市民や観光客で賑わった。

⑥. 新幹線活用対策事業（弘前市、(社)弘前観光コンベンション協会、商工会議所他）

事業完了時期	【実施中】平成 19 年度から
事業概要	平成 22 年 12 月に全線開業した東北新幹線で訪れる多くの観光客の、中心市街地での回遊を促進させるため、様々な観光イベントを企画・実施するとともに、観光情報の発信や P R を図る。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年度は、当初、東日本大震災の影響で観光客の入込が大きく落ち込んだが、青森デスティネーションキャンペーン関連のイベントや復興を柱とするまつり・プロジェクト等の実施、弘前城築城 400 年祭事業や街歩きツアー商品の充実などの取り組みにより、中心市街地への観光客の誘客が図られ、入り込み状況も前年並みまで回復した。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・平成 22 年度については、「駅前観光案内所」の観光案内者数が平成 23 年 3 月に落ち込んだことをはじめ、東日本大震災の影響による観光施設等の入場者数（案内者数）の減少はあったものの、東北新幹線全線開業に向けたイベントや開業後の観光客増加の効果により、観光施設のほとんどで増加する結果となり、年間を通して見ると、数値目標は前年度よりも増加する結果となりました。
- ・弘前公園及び周辺観光施設で実施される事業については、大部分が実施中であることも影響して、中心市街地全体への効果は当初見込んでいたよりも低い状況にはありますが、東北新幹線全線開業による効果を維持していくために「街歩きガイド事業」などの通年観光事業を、引き続き推進することにより、数値目標は達成できるものと考えています。